



地域密着!



# 豊平区とファイターズ

札幌ドームを本拠地として、2年目のシーズンを迎えた北海道日本ハムファイターズ。レフトスタンドを埋め尽くす多くのファンの応援風景もすっかりおなじみのものとなりました。

豊平区役所でも、ドームのある区として地域の個性を生かしたまちづくりを行おうと、今年度の重点取組項目に「ファイターズ応援事業」を掲げていますが、商店街や町内会といった地域の方々とファイターズの連携によるまちづくりも始まっています。

今月号では、豊平区とファイターズの密着ぶりを関係者のインタビューなどでご紹介します。

## 商店街

豊平・清田区商店街連絡協議会

常務理事 山田 良一さん



ファイターズ効果は大きいです。札幌ドームで試合があった日は、観戦後のお客さんに月寒の飲食店街をよく利用していただいています。試合の日以外もにぎわうような商店街づくりが今後の課題です。そして一番の大きな効果は、ファイターズをきっかけにお客さんとの会話が弾むことです。まちの話題という感じがですね。

一昨年、市全体の商店街応援団、「さっぽろ商店街わくわく応援団」を結成しました。豊平・清田区商店街連絡協議会は地元ということもあり、

球団とのパイプ役を担っています。今年の5月末から試合のある日は、豊平橋から清田までの国道36号線沿いに、100本以上の応援のぼりを飾ります。これは協議会のアイデアで実現したのですが、のぼりを飾って試合があることを知ってもらうとともに、チームを応援する雰囲気盛り上げようと企画しました。将来は豊平区全体に飾りたいと考えています。

ファイターズに望むことは、強いチームになることと、地元根付いた地域の一員になってもらうこと。熱心なファンを育てるには商店街などの地域の力も必要だと思います。球団側の地域に密着したいという熱意も伝わってきますし、もっと連携を密にしながら、地域も球団も活性化している関係になりたいですね。

応援のぼりイメージイラスト



## まちづくり団体

東月寒まちづくり協議会準備会



後列左から、松尾博幸東月寒まちづくりセンター所長、船越一珠子さん、土井計人さん。前列左から、西條保さん、大西照男さん。

「子どもたちが安心して住めるまち」をつくろうと、町内会、PTA、小中学校、ボランティア団体などが集まって、「まちづくり協議会」の設立準備をしています。協議会の構成員には、ファイターズやコンサドーレ札幌も入っています。

ファイターズは町内会連合会の新年会や、夏まつりなどに参加してもらった関係でお付き合いがありましたが、今後の協議会への参加についても、子どもに関することならばと快諾してくれています。

協議会の活動内容は、参加者や子どもたちと意見を交わしながら検討していきますが、「子どもたちを地域で育てよう」をテーマに、防犯、防災、交通安全、スポーツ交流・体験などを行っていく予定です。ファイターズとは、おまつりや地域で行っているいも植えなどのイベントに選手を招待したり、交通安全の旗にチームのロゴマークや選手の写真を使ってはどうかなどと、地元ならではの連携を考えています。

ファイターズのいる地域としての雰囲気を盛り上げながら、一緒にまちづくりを進めていけたらと期待しています。

## 少年野球

札幌市豊平区少年軟式野球連盟 事務局長 大木 敏幸さん



豊平区少年軟式野球連盟には、現在17チーム、352人の子どもたちが所属しています。

地元プロ野球のチームが来た影響は大きいですね。ファイターズの試合を見て野球をやりたいようになったケースが多いようで、ファイターズの帽子やTシャツを身に付けた入団希望者が増えました。ユニフォームをファイターズ風に変更したチームもありますよ。でも、一番大きな影響と言えば、ファイターズの選手になりたいという目標を子どもたちに与えてくれたことではないでしょうか。

子どもたちも熱心に応援しています。連盟所属選手の多くがファンクラブに加入して観戦にいらっているようです。団体応援も行っていて、昨年の開幕戦では1,000人の応援団で観戦、今年はオープン戦で、200人が新庄シートに招待してもらい観戦しました。

ファイターズ主催の野球教室にも参加しています。参加者は、連盟所属選手の中から50人を選んでいます。東区にある練習場に入ることができたり、元プロ野球選手の方に直接指導してもらえたりと、子どもたちには大好評です。

ファイターズカップという、ファイターズ主催の少年野球大会もあります。全市のチームで優勝を争い、準決勝戦と決勝戦は札幌ドームで行われます。ドームで試合をするという経験は、少年野球ではなかなかできないことなので、子どもたちもとても張り切って練習しています。



ファイターズカップ豊平区予選の様子